

DayDream palauが新天地として求めたのは、
パラオの北端に位置するカヤンゲル環礁。

コロールからスピードボートで約2時間かかるこ
の最北の地は、パラオのリピーターの中でも注
目度の高いエリア。遠方のため、なかなかポイン
ト情報、データなどの蓄積が難しいが、それを承
知でDayDream palauが始動した。

パラオの海を全て知りたいDayDream palauの
新しい旅が始まった。

DayDream palauの 新しい旅の始まり

未知なる美しい環礁

カヤンゲル

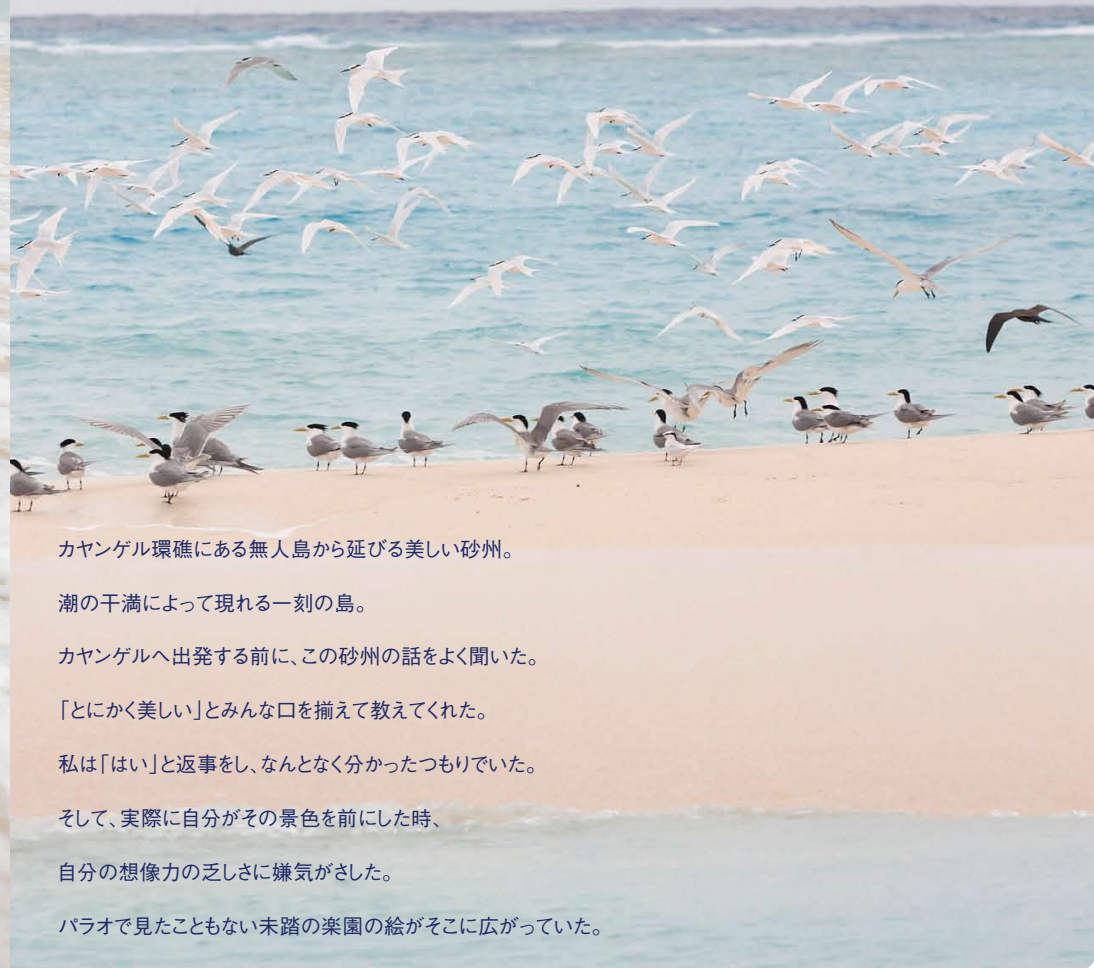
photo&test Yasuki Nagai
Special thanks DayDream Palau daydreamSPIRITS

ビーチで星の形をしたサンゴの欠片を見つけた

未知なる美しい環礁 **カヤンゲル**
Web-lue 2008. Spring

Information link <http://www.daydream.to> 関連情報HPへ

優しく柔らかな波が
身体を包んでくれる



カヤンゲル環礁にある無人島から延びる美しい砂州。

潮の干満によって現れる一刻の島。

カヤンゲルへ出発する前に、この砂州の話をよく聞いた。

「とにかく美しい」とみんな口を揃えて教えてくれた。

私は「はい」と返事し、なんとなく分かったつもりでいた。

そして、実際に自分がその景色を前にした時、

自分の想像力の乏しさに嫌気がさした。

パラオで見たこともない未踏の楽園の絵がそこに広がっていた。

無人島の砂州、時間によって形を変える(左)
同じ砂州では海鳥がたくさん休憩してる(右)

未知なる美しい環礁 **カヤンゲル**
Web-lue 2008. Spring

Information link  関連情報HPへ
<http://www.daydream.to>

ドキドキの瞬間だった!

潜りこんだ大物ポイント「G-1」。ブリーフィング時に秋野さんが、「一発チャンスの可能性が高いです。最初の出会いの 때가 最も寄ることができるので、そこを写真に収めてください」とアドバイスをくれた。

まるでステージのような海底を漂いながら、潮の流れに身を任す。大きなサメのシルエットが深い青の向こうに浮かんだ。素早く静かに潜降すると秋野さんが私の後ろで空のペットボトルをガチャガチャと鳴らした。ファインダーの中でシルバーチップシャークの姿がどんどん大きくなっていく。私はドキドキしながら、シャッターを数回切った。そして、こんなに美しいサメを間近で撮影できる喜びを噛みしめていた。

目の前に現れたスピードスター 3 m級のシルバーチップシャーク!



ボートの上で丁寧にブリーフィングをする秋野氏



シルバーチップシャークのイタズラな視線を感じた

未知なる美しい環礁 **カヤンゲル**
Web-lue 2008. Spring

Information link  関連情報HPへ
<http://www.daydream.to>



ブルーウォーターに漂いながら、
記念ダイブの撮影

カヤンゲルならではの ポイントで潜る！

今回の取材は、風に翻弄されて、ポイント選択にかなり影響を受けた。それでも冒険的なダイビングを楽しんだDayDreamのオリジナルポイント「009」とシルバートップシャークやたくさんのオグロメジロザメ、大型のエイに出会えた「G-1」など、カヤンゲルならではのダイビングポイントで様々な生き物たちと出会うことができた。私（鍵井）はフライトスケジュールの都合で残念ながらこの2本しか潜ることができなかった。しかし、一緒にツアーに参加したゲストの皆さんは、抜群の透明度のなか、リーフ

フィッシュの賑やかな水中景観が楽しめる「Entrance of KAYANGEL」。インドオキアジやバラクーダの群れなど魚まみれの「ロックタワー」で楽しんでいた。また、「テールトップリーフ」というペリリューコーナー、シャークシティと並ぶパラオ3大超大物スポットにも、次回は是非潜ってみたい。そこはロウニンアジの群れや時にはブルーマーリンも現れるという。未踏の楽園の先にある未知数の大物ポイント。この目で確かめてみたい。



大型種のエイも多数見られる



期待を胸にカヤンゲルの海にエントリーする



船上のランチ、お弁当がこれまた美味しい！



ダイビングの後は、何気ないカヤンゲルの風景の中を散策する

カヤンゲルの素朴な島と笑顔 夜はBBQパーティー!! & 星空

エキサイティングなダイビングの後は、島に上陸して散策。道端に咲く花の香りがほのかに鼻腔をくすぐる。素朴な島民の笑顔に心洗われる。日中、海でサメなどの出会いが刺激的だったから、島に流れるゆくつりとした時間がより心地良い。そんな真逆の2つの時間を楽しめるのもカヤンゲルの魅力かもしれない。夜の帳が下りると宿泊施設の



夜鉄塔の向こうに無数の星が浮かぶ



地面に落ちているモノ(上)
笑顔で向かえてくれる地元の家族(下)



夜は美味しいBBQで大盛り上がり!!!!

TAKADAハウスの中庭でスタッフお手製のBBQが始まる!これがまた上手い。骨付きカルビ! 最高。そしてビールを飲み、少しほろ酔いで海岸線へ。空に満天の星空が煌いている。そして、最後に嬉しい報告はキレイなトイレ、シャワーの施設がちゃんと用意されていること。島で快適な休暇が約束されている。

Day Dream 秋野大が カヤンゲルの「男っぽい海」に 惚れた!!?



カヤンゲルの青い海と秋野大氏

僕が初めてカヤンゲルに行った時の印象は「こんな綺麗なビーチがパラオにもあったんだ」という驚き。少しだけ赤みが入ったオレンジに近い砂。誰も歩かないから砂紋がそのまま残されている広いビーチの先端ではアジサシ達が羽を休めている。「誰も来ない、誰も知らないところにパラダイスってあるんだなあ」って思いました。そしてさらに驚いたのが島の素朴さ。本当にここは21世紀なのかと思うほど素朴な島の生活。必要最低限のインフラと質素な生活。そんな島だから、島の人たちも素朴で温かい。誰にでも挨拶してくれる気さくさと、道に迷う(ことはほとんど無いけど)とすぐに教えてくれる優しさ。そんな島だからこそなのでしょうかね? 子供たちの笑顔は可愛さはピカイチ。最高の笑顔で迎えられると、なんだかそれだけでこの島に来た

甲斐があったように思えてしまう。とにかくそんな「ほのぼの」できる島なんですよ。あそこは。そして海はダイナミックなポイントが揃っています。北の横綱ポイント「テールトゥブリーフ」から始まり、シルバーチップシャークの宝庫「G-1」、光り物の定番「コソールリーフ」、北の最強ストップポイント「ロックタワー」などなど。他にもカヤンゲルブルーホールやFエントランスなどありますが、一言で言うなら「凄い海」。男っぽい海と表現してもいいかもしれないですね。海は面白いですが、その代わりにコンディションの判断は慎重すぎるくらい慎重にしますよ。そのくらい難しい海とも言えるかも知れませんが。

秋野 大



デイドリーム パラオ

代表の秋野大を筆頭に日本人、パラオ人混成の常勤ガイドが10名。ベテランから若手まで揃い、フィッシュウッチング派、カメラ派、ビギナー、ブランクダイバーやシニアダイバーまで幅広い層に支持される。リピート率も高い。また、個々のガイドセンスを生かしつつ、チームとしての総合的なガイド力、ゲストへの満足度などのボトムクリエーターを挙げる努力を怠らない。常にポイント開発を積極的に行い、新しいパラオの海を紹介し続ける。これまでweb-lueで紹介し続けてきたデイドリーム パラオ・ベリリューステーションも人気。

